

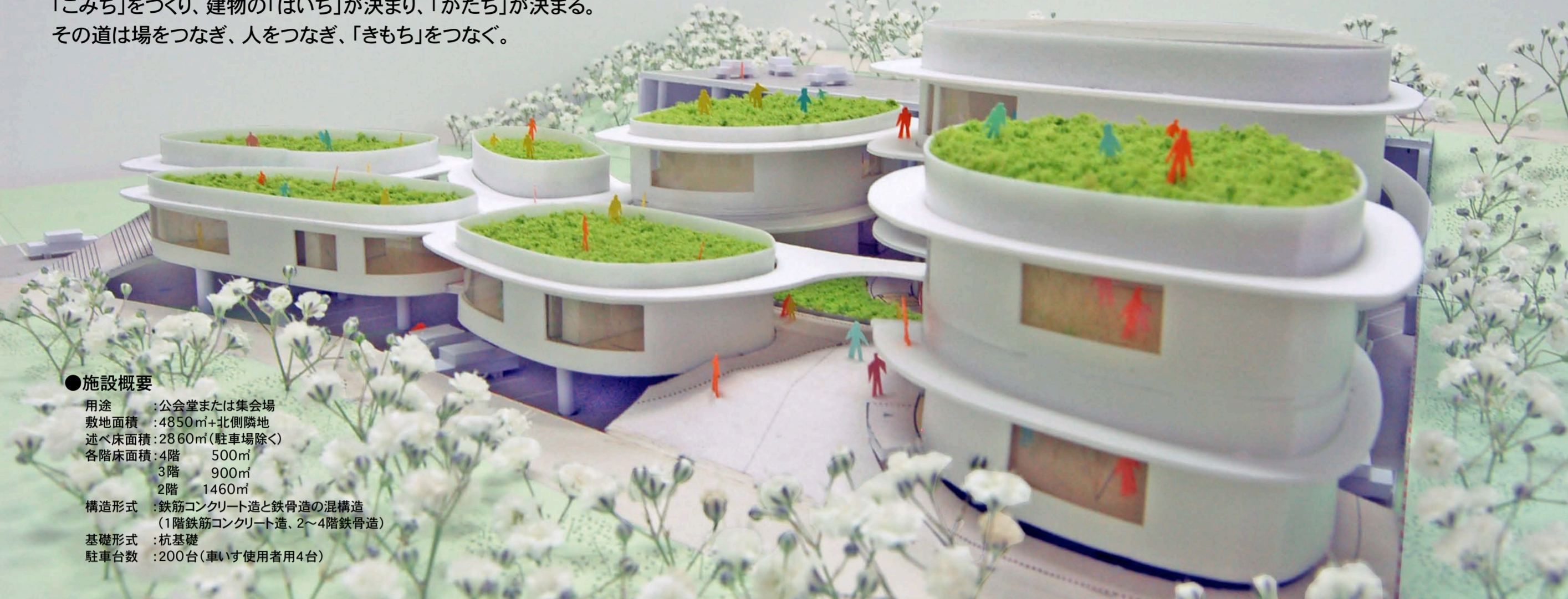
# こみち、はいち、かたち、きもち

人や組織が活動するということは、道をつくるということ。

私たちは、必要に応じて伸びて曲がって分かれて、いろいろなものをつなげていく「こみち」をつくることを提案します。

「こみち」をつくり、建物の「はいち」が決まり、「かたち」が決まる。

その道は場をつなぎ、人をつなぎ、「きもち」をつなぐ。



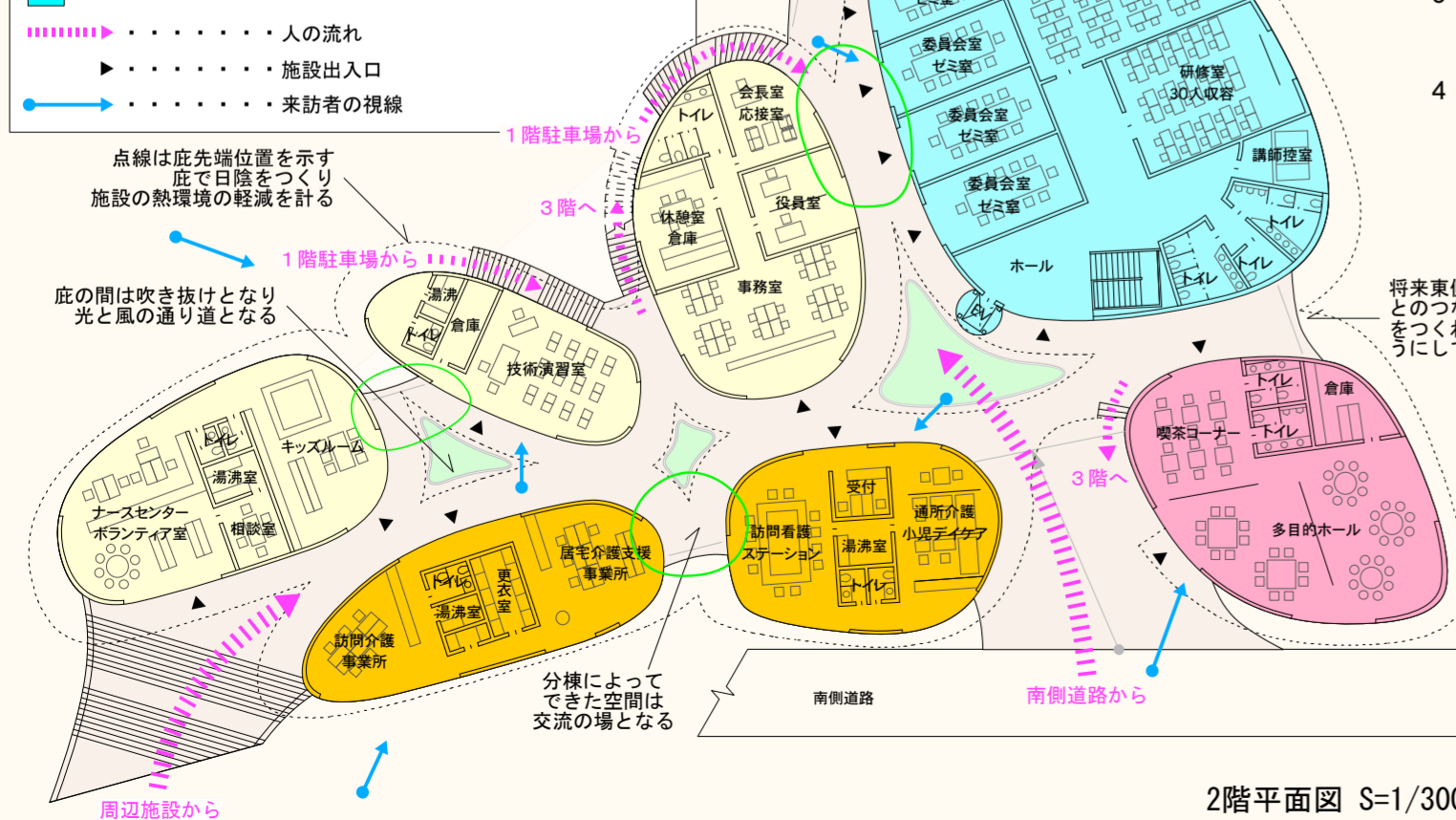
## ●施設概要

- 用途 : 公会堂または集会場
- 敷地面積 : 4850㎡+北側隣地
- 述べ床面積 : 2860㎡(駐車場除く)
- 各階床面積 : 4階 500㎡  
3階 900㎡  
2階 1460㎡
- 構造形式 : 鉄筋コンクリート造と鉄骨造の混構造  
(1階鉄筋コンクリート造、2~4階鉄骨造)
- 基礎形式 : 杭基礎
- 駐車台数 : 200台(車いす使用者4台)

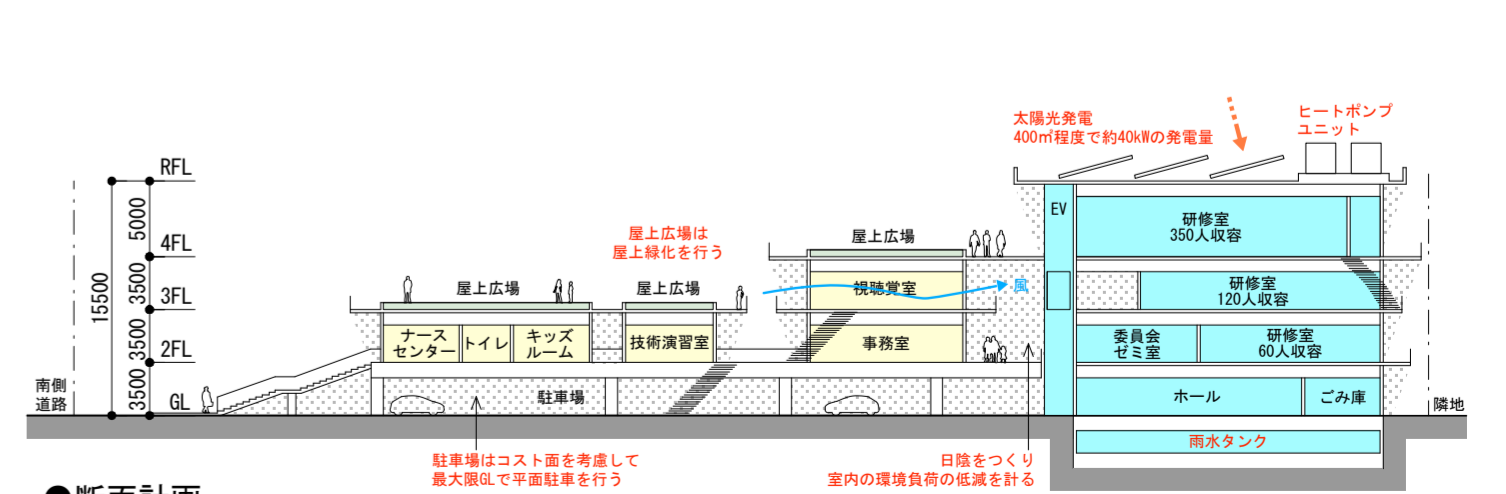
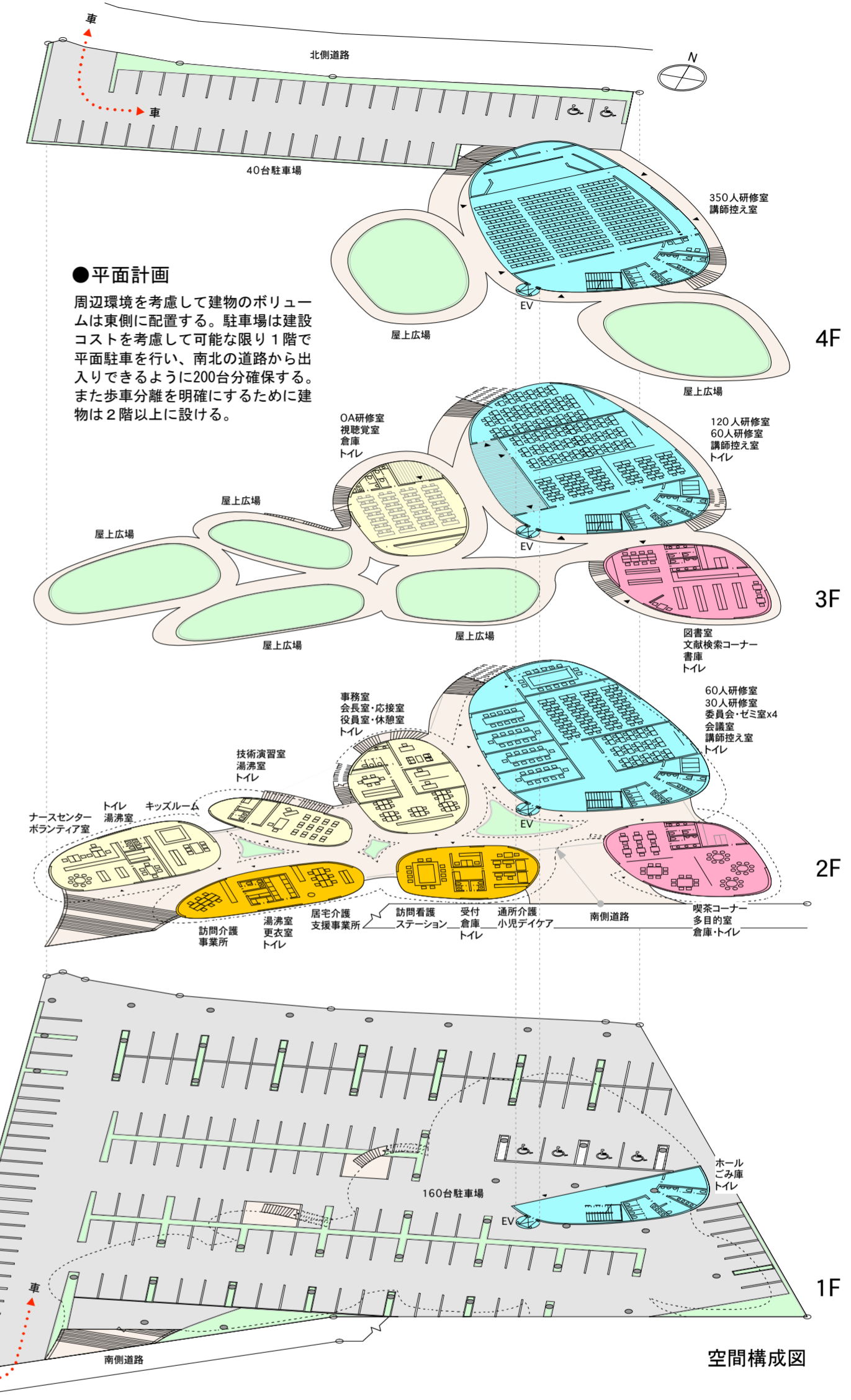
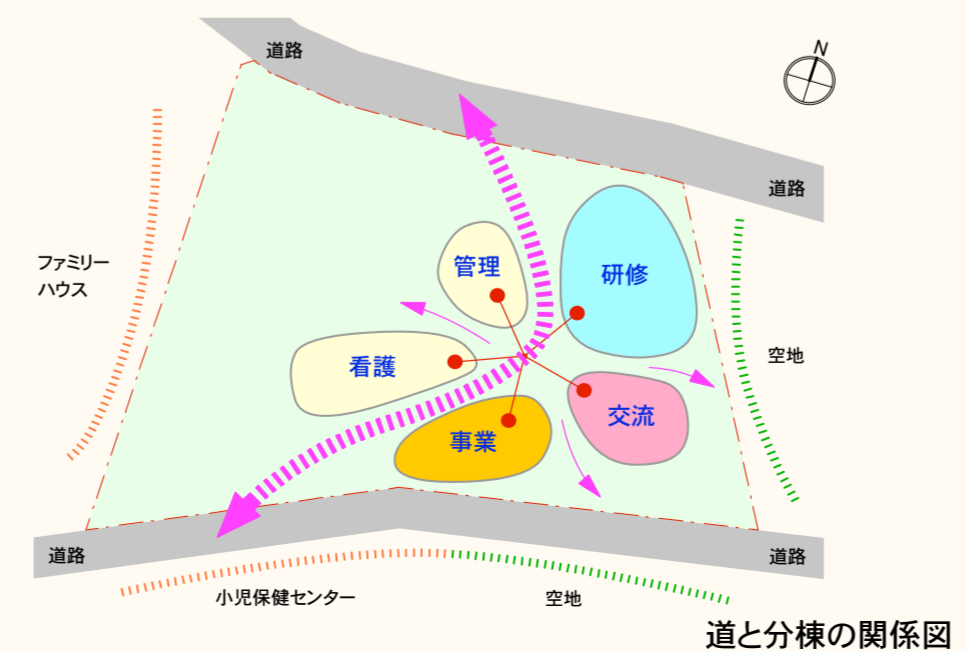


## ●施設の説明

- ナースゾーン** : 看護関係、施設管理関係の諸室を配置。看護専門職の教育拠点となるゾーン
- にぎわいゾーン** : 外来者が訪問介護・看護関係の仕事を知り、また周辺施設との連携をはかるゾーン
- やすらぎゾーン** : 施設を利用する人々に癒しを与えるゾーン
- 研修ゾーン** : 各種さまざまな研修・会議を行うゾーン



- 施設、人々をつなぐ「こみち」**  
さまざまな方向に伸びた「こみち」は研修センター内の部署や上下階をつなぎます。また通りから施設内部へ引き込むような「こみち」は医療福祉ゾーンとの連携をスムーズにし、訪れる県民を優しく迎え入れます。
- 建物を分棟配置**  
施設を用途や機能ごとに分棟配置し、看護や福祉のイメージから角のない柔らかな建物とします。分棟によって生まれた隙間の空間は利用者の交流の場としても活用できます。活動拠点が独立する事で、個々の円滑事業運営が可能となります。また、ゾーンごとの施設管理ができる事で、セキュリティが容易になります。
- 気配が伝わる建物**  
各施設の様子が外から見えるように計画します。活動内容が見えることで一般市民に看護を身近に感じてもらいつつ、看護関係者の職業意識の向上につなげていきたいと思います。
- フレキシブルなインフラ整備**  
看護に関する情報発信拠点としての機能を十分備えます。また、施設の将来の変化にも対応できるよう、点検が容易な施設づくりを行います。情報だけでなく、人や組織のネットワークの拠点として利用できるような施設にします。



●断面計画  
太陽、水、風、緑など自然エネルギーを最大限活用してライフサイクルコストの低減を行う。また、強い日射しを遮るために庇を設け、緑化と合わせて心地よい木陰空間を創出するとともに、環境負荷の低減を計る。

断面図 S=1/500